

地震

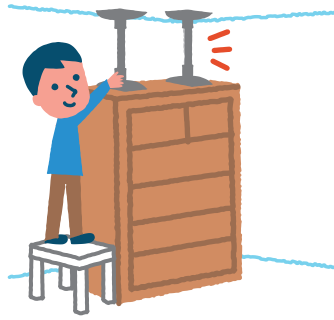
関連 WEBサイト
 気象庁 気象警報・注意報
 気象庁 地震情報

家の中の地震対策について

地震発生時に家具の転倒などによってケガをしたり逃げ道をふさがれないよう、地震対策を行いましょう。

●家具の固定・転落防止

タンス、食器棚や本棚は、L字型金具やつっぱり棒で固定しましょう。



テレビはできるだけ低い位置に置き、すべり止めや転落防止バンドで固定しましょう。



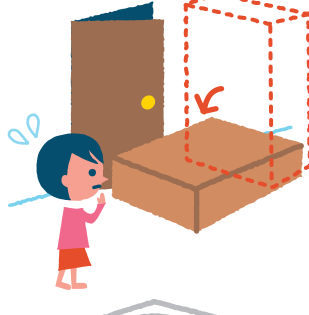
●ガラスの飛散防止

窓ガラスや棚のガラスには飛散防止フィルムを貼りましょう。



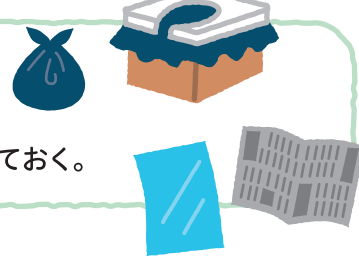
●通路の確保

部屋の入り口付近には物を置かないようにしましょう。



トイレが使えない場合の対応策

- 簡易トイレや携帯トイレを使用する(保管場所・ゴミ出しのルールを決めておく)。
- 簡易トイレの代わりとして、ビニール袋や新聞紙、消臭スプレー、重曹なども用意しておく。



マンション特有の注意点

マンションでは、建物の構造や多くの人たちが一緒に生活しているという生活環境の特徴から、戸建て住宅とは異なる防災対策が必要となります。

●通路・非常口・非常階段

通路・非常口・非常階段などの共用部分に通行の妨げになるようなものを置かないようにしましょう。

また、一斉に階段を使用すると二次災害になるおそれがあるので、注意して使用しましょう。



●エレベーターの停止

エレベーターが長時間停止した場合は、階段でしか移動できなくなります。

高層階に住む人ほど、移動や水・食料などの運搬が困難になるので、平常時から多めに用意しておきましょう。



●ベランダ

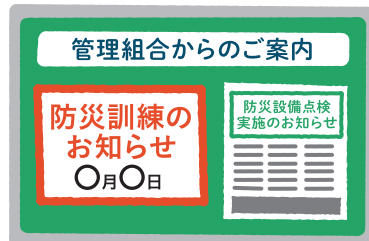
ベランダの避難ハッチ(非常脱出口)の使用方法を確認しておきましょう。

また、ハッチをふさぐようなものは置かないようにしましょう。



●管理組合からの連絡

防災設備の点検や防災訓練のお知らせなど、管理組合からの連絡には日頃から注意しましょう。



●トイレ・ゴミの問題

配管・配水管が破損すると、トイレを使うことができません。高層階に住む人ほど、不便が大きくなります。

また、災害用の携帯トイレなどを使う際には、ゴミの問題とあわせて悪臭など衛生面の問題が発生します。



地震発生時のタイムライン

地震発生

まずは自分の身を守る

- 机の下に入る。 ●家具やガラス面から離れる。
- クッションや雑誌などで頭を保護する。



緊急地震速報

震源に近い観測点で地震を察知し、直ちに震源や地震の規模(マグニチュード)などを推定し、大きな揺れが始まる数秒前から数十秒前にお知らせするシステムです。情報が出たら、身を守ることを第一に、どのような行動がとれるか、日頃から話し合っておきましょう。

緊急地震速報の流れ



ここがポイント! こんなときは

■人が大勢いる施設では

むやみに移動すると混乱をまねく恐れがあるため係員の指示に従い、落ち着いて行動。

■山やがけ付近では

落石やがけ崩れに注意。

■路上にいた!

窓ガラスや瓦などの落下物からカバンなどで頭を保護し、空き地や公園などに避難する。

注意 ブロック塀、自動販売機には近づかない。倒れそうな電柱、垂れ下がった電線に注意する。

■車を運転していた!

徐々にスピードを落とし、左側に止め、エンジンを切る。揺れがおさまるまで冷静に、カーラジオなどで情報収集。

注意 避難するときはキーは付けたまま、ドアロックもしない。貴重品を持ち出し、徒歩で避難する。

■エレベーターの中にいた!

すべての階のボタンを押し、停止した階で降りる。

注意 閉じ込められても無理に脱出しようとせず、非常ボタンで外部と連絡をとり救出を待つ。

発生から1~2分

揺れがおさまったらまず火の始末

- 脱出口を確保する。 ●火元を確認する。
- 家族の安全を確保する。 ●靴をはく。



発生から3分

隣近所の安全確認

- 隣近所に声をかける。 ●近所に火が出ていたら初期消火。
- 余震に注意。 ●非常持出品を用意する。



発生から5分

ラジオなどで正しい情報を入手

- 正しい情報をつかむ。 ●緊急連絡を優先。
- 家屋倒壊などの危険があれば避難。

⇒避難場所へ避難 63ページをチェック



発生から10分~

協力して消火・救出・救護活動

- 助け合いの心が大切。 ●水・食料は蓄えているもので。
- 壊れた家には入らない。 ●災害情報・被害情報の収集を行い、デマ情報にまどわされない。

